

令和6年度 第1回川崎市立社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和6年5月26日（日） 10:00 ～ 12:00
- 2 開催場所 かわさき宙と緑の科学館 2階 学習室3
- 3 出席者 委 員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、原田委員、
今委員、長谷川委員、柴田委員、服部委員、大泉委員
事務局 阿波園長、藤川担当係長、葉山担当係長
- 4 議題
 - （1）博物館の事業評価について
 - （2）令和5年度日本民家園事業評価シートについて
 - （3）川崎市立日本民家園運営基本方針について
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
 - 1）園長挨拶
 - 2）会議成立の確認
 - 3）委嘱状の交付
 - 4）各委員自己紹介
 - 5）資料の確認
 - 6）報告事項
 - （1）令和5年度統計確定値について
＜資料を事務局より説明＞
 - （2）川崎市立日本民家園運営基本方針の策定について
＜資料を事務局より説明＞

7) 議事

[博物館の事業評価]

＜資料「日本民家園協議会における評価の実施について」を事務局より説明＞

高橋会長：「協議会」を「専門部会」と読み替えてという説明があったが、専門部会で作り直してもよいのでは。市民ミュージアムについてはなくても良い。運営方針と突き合わせて使命の方も加えるものがあればこれを期に見直すべき。

藤川係長：はい。ありがとうございます。

[6年度日本民家園事業評価シート]

＜資料を事務局より説明＞

菅野委員：総入園者数は前年に比べて冒険した数字に見えるが、これは緑化フェアの来場者を見越した数字なのか。

阿波園長：例年5月と11月は来園者増加が見込める月で、緑化フェアの11月と3月は月曜日も開園予定。その代わり人が少ない8月の第1週に休園日を設けている。全国から緑化フェアによる来園が期待でき、平日も月曜日が開園で入園者数の増加が期待できるため、4年度から5年度の上昇率よりもかなり上がった数値目標にしている。

菅野委員：わかった。しかし、特殊要因で数字を出すと後々実績を継続するのが難しくなるのではないか。

阿波園長：目標がかなり高い数値となっているのは承知しているが、川崎市の100周年という特殊な時期でもあるので、目標として設定してほしいという意見もあるためこの数値目標にしている。ちなみに4年度から5年度の上昇率は1.15%で、その率で計算すると132,000人という数字になり、それに加え月曜開園も見越して計算した。

原田委員：外国人入園者数の数値目標について、5年度の実績に比べてかなり少なく、コロナ禍以前の数値を見ても7,000人以上あるなかでなぜこの数値が出てきたのか。

阿波園長：5年度の9,600人という数字はかなり突出したもので、元々の5年度の目標は4,500人と設定していた。コロナ明けということでかなり外国の方の入園者数が増加した。ただ、9,600人という数字の要因が分析しきれていないということと、外国人入園者数は情勢によっても変化しやすいことから、増加は予想されるものの現時点での現実的な数字として設定している。

大野委員：休園日と開園日が今年に限って変わるということなのか。

阿波園長：はい。緑化フェアの開催に伴って、民家園だけではなく青少年科学館や岡本太郎美術館でも月曜日を開館する。

大野委員：7月の末から8月の1週間の休園は共通なのか。

阿波園長：民家園は8月に入園者数が減るということと野外であるということで、8月を代替の休園日と設定しているが、科学館と美術館はそれぞれの館の事情によって代替の休館日を決定している。

大野委員：気になるのは、今回の臨時開園と臨時休園をどこまでアナウンスできるのか。だいたい月曜日は休みなので人が来ない、せっかく夏休みに行ったのにやっていないなど、クレームが出る可能性もあるので、周知をきちんと行ったうえでうまく対応しないとトラブルのもとになるので十分周知する必要がある。緑化フェアのチラシに入れてもらうなどしないと心配。

高橋会長：8月に来園者数が少ないという理由で夏休み期間中に一般向けの施設が1週間も、設備の問題でもなく閉めるというのはちょっと考えにくい。これはもう市としても通っているのか。休むというのは大胆ではないか

阿波園長：全国の緑化フェアの会場として、市として重視するという強い要請があ

る。そのなかで開園日数はある程度決まっています、どこかを開けるとどこかを閉めないといけないので、統計的に入園者数が落ち込む、民家園として一番影響のないところで休園日を決めている。

大野委員：来園者が少ない時期でも来るお客様というのは信頼できるお客様とも見ることができるので、そこにダメージを与えるというマイナスは大きいことは認識したうえで対応をするべき。暑い日に行ったからこそ民家の涼しさを感じることもある。それも大事なので、今回に限って特別に見学できない旨をしっかりお伝えするべき。

阿波園長：アナウンスの仕方については十分検討したい。

柴田委員：月曜日を開園するということに対して、炉端の会でも議論になった。猛暑の時期に囲炉裏の火の管理は大変で、過去には熱中症になられた方もおり、炉端の会でも8月24日まで夏休みとして自由参加の期間を設けている。来園者も猛暑日には火の傍にはなかなか来ないという状況がある。

柴田委員：外国人入園者数について、現場で見ている、去年よりもむしろこの春だけでも増えていて、世界各国のグループも目立つ。伝統工芸館を利用する外国人も増えている。興味を持たれる一つの場所でもある。もっと強気の数値でも良いのではないかな。

菅野委員：休園日の臨時の変更措置について、条例規則上問題はないのか。

阿波園長：条例規則上、日付まで具体的に定めていないので特に問題はない。

藤川係長：7月末から8月の休園日については教育次長まで決裁が通っていて承認を頂いている。また今回は収蔵庫の燻蒸期間としてまとまった休みがほしいということで休園日を設けている。

菅野委員：職員の方は出勤されるのか。

藤川係長：本館に入れなくなるので基本的にはお休みとさせていただく。

高橋会長：先程から数値の話が出ているが、目標値をあえて減らす必要はないのでは

ないか。極めて難しいハードルを上げていく必要はないが、特に緑化フェアや市制 100 年もあるので、外国人入園者数や工芸館の体験参加者数・収入の目標値を減らすのは先程の説明と矛盾するので、こんなに減らす必要はないのではないか。

阿波園長：特に外国人入園者数については実績と乖離があるので検討する。ただ、単純な伸び率での計算というよりも、実績に近い数値で確認していきたい。

高橋会長：通常こういう場合には目標値は実績に若干プラスさせたものだと思うので、もう一度お考えになっても良いのではないか。

野尻委員：外国人入園者数については不確定なところもあるので、堅い数値とのことだが、来園学校数が減っているのはどうしてか。

高橋会長：学校数にはマックスの数値があるのではないか。

阿波園長：受け入れ態勢もあり体験学習は抽選で決まるため、数がだいたい決まっていて、ほぼ横ばいという数字にしている。

高橋会長：そこは開館日数とも関わるので、無理のない数字で良いと思う。数値目標については、検討するという事でお願いしたい。

[1 保存・研究・展示・普及活動]

<資料「(1) 文化財の保存・調査研究の推進」について事務局より説明>

大野委員：最近入れ替わりもあったので、民家園の職員の人員数を確認したい。

阿波園長：<建築、民俗それぞれの職員と事務職員の説明>

大野委員：正規職員が 6 人、OB が 1 人、会計年度任用職員が 3 人ということでしょうか。

阿波園長：はい。あとは施設警備や広報については指定管理の職員が行っている。

藤川係長：秋ごろからアルバイト(会計年度時間額職員)を 3 人～4 人ほど採用して小

学校の体験学習対応を中心に行ってもらっている。

高橋会長：名前が入ってなくても良いので、組織の図があった方が良い。人員に対して目標やイベントが多過ぎて手が回らないということも前回言っていたので、どういう勤務形態が何名で、何時間出勤する人が何名など、もう少し把握できれば意見も言いやすいと思う。

菅野委員：昨年度までの前任の渋谷園長は学芸員から昇任され学芸のこともよく分かっていて、答えていただいていたが、事業評価シートに学芸業務に関わる内容もあるので、無理のない範囲でこの会議に学芸の方でそれなりに応答のできる職員の参加を検討してほしい。

阿波園長：次回以降対応できるように検討する。

野尻委員：山下家・太田家耐震工事報告書（原稿編集まで）とあるが、工程表では令和6年度の予定に入っていない。

葉山係長：すみません。工程表の方を修正していませんでした。

高橋会長：そこは直しておいてください。

大野委員：小泉さんの便所と佐々木家井戸屋根は未指定のものなので、修理するのに、体験学習のようなものをぜひ検討してほしい。以前子供大工体験入門で民家園の木を切って製材する、小屋を組み立てるなどの体験をやっていた。なんでも工事に出すのではなく、足場を組んで杉皮を葺いてみるなど、来園者の方に参加してもらい、体験を通して民家園に親しんでもらい、修理をすることで伝統工法を知ってもらえるとよいのではないか。学芸の方と協力して、来年再来年の話ではないが、体験学習に含めるなど長期的に検討したらどうか。

高橋会長：ワークショップなどを通して学芸員の研究成果の反映や学校等の連携を含めて幅広くできることがあると思うので、ぜひ検討してほしい。

菅野委員：害獣駆除という言葉は、初めて出てきた。もちろん建物に悪さをする動物は駆除する必要があると思うが、自然を尊重される方とのすり合わせはどうなのか。

阿波園長：害獣駆除に関しては、指定されているものを駆除の対象にしている。

菅野委員：燻蒸のガスは何を使うのか。

阿波園長：まだこれから契約だが、候補はエキヒューム S とアルプのどちらかを指定している。業者を選定してからどちらかを選択する。

菅野委員：エキヒューム S は今年度末で製造中止になるというのは承知しているか。

阿波園長：日本液炭という会社のエキヒューム S は今年度の燻蒸なら可能なので使用予定。

高橋会長：どこを燻蒸するのか。

阿波園長：地下収蔵庫を密閉して行う予定。

高橋会長：結構大きい収蔵庫なのか。ガスが外に出るので近隣への周知が大変なのは。建物自体を燻蒸する必要や動かせない物がないのならば、何回かに分けて業者の燻蒸庫に運んでもらうほうが安全なのではないか。

葉山係長：過去に行った際、部屋を目張りしてダクトを伸ばして、園内の宿場の村の方にガスを放出する形を取った。フィルター等については把握していない。

菅野委員：ガスの成分は活性炭で吸着した上で排気するはずなので、そんなに高濃度のものは出ないと思う。

高橋会長：最近は厳しい見方もある。予算や手間、危険性を考えると厳しいかもしれないが、運びやすい本などが中心であれば、持って行って燻蒸するほうがいいかもしれない。業者と話し合って検討してほしい。黙ってやるとリス

クは高いので、休園と燻蒸についての周知は、すべきなのかしないほうが良いのかを十分に検討してほしい。

<資料「1(2)展示の充実」を事務局より説明>

野尻委員：動画視聴に関して。見方、使い方はどうなるのか。どこで見られるのか。

阿波園長：音声ガイドと同じく2次元コードの活用を考えている。例えば山下家の2, 3階は、興味を持たれる方も多く、そういった普段見られないところの対応をしていきたい。また、園内の奥の方の車椅子が入れないところもこういったサービスを使ってサポートしていきたい。

野尻委員：来園者が自分のスマホで見るということか。

阿波園長：開発の仕方にもよるが、こういった方法が取れるか、現在検討中。

大泉委員：2次元コードの利用の話が出たが、園内のWi-Fiはどうなっているのか。

阿波園長：川崎市のフリーWi-Fiがつながるのでそこから見ることができる。外国人も利用が多く、国内の方はWi-Fiを使わずに、かざせば見られる状況である。

藤川係長：フリーWi-Fiは、園内の奥の方は電波が弱かったり、登録が必要だったりするが、使うことはできる。

菅野委員：展示計画として令和7年度の前期の準備は、今年度中にしているはずなので、ある程度は先の展示についても決まっているのではないか。その計画を踏まえて盛り込んで行けるのではないか。

阿波園長：「おじいさんは山へしば刈に」の後期の企画展「おばあさんは川へ洗濯に」を今年度から来年度にかけて予定している。年度をまたがるので示せていなかったが、7月の専門部会で審議する来年度の計画には示したい。

高橋会長：中期計画のようなかたちで企画展は決めているのか。

阿波園長：まだそこは決められていない。

＜資料「１（３）教育普及活動の充実」を事務局より説明＞

大野委員：実測実習可能な棟が２年ほど前から管理しやすいからという理由で限定されている。対応が不本意。いい建物を学生が体験するため、この建物でやりたい等希望があるので、管理上の問題だけで決めず、柔軟に、せめて話し合いの場を設けてほしい。あまり厳しいと利用されなくなるし、なぜ大学に公開するのかという意味も考えて検討していただきたい。

阿波園長：今年も積極的に受け入れており、是非来ていただきたいので、相談していただければ対応していきたいと思う。

高橋会長：学校側がどういう学習を期待しているのか考慮の上、双方のすり合わせを期待したい。

柴田委員：市民活動団体との連携について。炉端の会は現場でお手伝いしている。民家園という博物館の中で、建物をどう展示し、来園者にどう見せたいのか。薪の保管場所、雑巾置き場、水回りなど１軒ずつないと炉端の会としては不便。これらは、見えない場所にあることが多いが、博物館としてどのような位置づけになるのか。景観を重点に置くのならば、生活の不便さを見せることは必要かもしれないが、どの程度まで妥協できるのか。炉端の会の活動の利便性と景観のバランスをどう考えているのか。

阿波園長：民家園は建物だけではなく当時の暮らし研究も合わせて展示を行うことを目的としている。昨年度定めた運営基本方針に基づいた運営をしていきたい。運営基本方針に基づいて評価シートも更新していくので、７月には改定案を示し、意見をいただきながら建物の展示と合わせて、暮らしの調査研究の進捗状況も評価していきたい。

高橋会長：このところ協力者会議ができていないと伺っている。ボランティア団体に

支えられている部分も大きいと思う。民家園の現場を見ている市民団体は、園内でボランティアをしながらやりにくさや疑問、自分たちの活動が民家園の博物館としての事業展開と合致しているのか考えながらやっていると思う。今年はなんとか開催して、話し合いを密にしてほしい。

阿波園長：今年は緑化フェアの開催もあるので協力者会議を開催し、調整して話し合いを行いたい。

長谷川委員：古民家カフェが人気なのに春と秋しかやらないのはなぜか。もっと期間が増えたほうが利用者も増えるのではないか。

藤川係長：夏冬は環境や気温の問題で来園者数が少ない。管理班の方で業者を募って出店しているが、お客様が見込めない時期は事業者さんも入りにくい。今後状況が良ければ他の時期の開催も検討したい。

長谷川委員：入口にメニューや料金があると入りやすくなるのではないか。

長谷川委員：原家の出入り口、土足の範囲は外国人には伝わりにくいのではないか。どこで靴を脱ぐのか、外国の方にも分かりやすい示し方をするとよいのではないか。

[2 運営・管理活動]

<資料「2(1)博物館運営の強化」を事務局より説明>

質疑特になし

<資料「2(2)利用者の利便性・安全性の向上」を事務局より説明>

菅野委員：今年も夏は暑いということで、屋根の下で休めるところがほしい。作田家のあずまやが工事で使えないということで、来園者が休憩する場所がない。具体的に増設という意味で考えていることはあるか。

阿波園長：園内工事が難しいという状況がある。通常、民家の中では飲食できない

が、8月は例外的な対応が必要だと感じている。日陰の代わりとして、暑い日は古民家の中でも休めるようにしたい。本来は日陰を増設していく工事が必要なことも把握はしているが、工事には期間もかかるため、臨時的な対応を取りたい。

大野委員：囲炉裏で火を焚いていない棟も休憩所として入れるようにしたほうが良いのではないか。飛騨高山では誰も見ていないところで囲炉裏の火を焚いている例もある。原家は監視がなくても平穏が保たれている。今あるものを上手く使うという発想が現実的だと思う。

高橋会長：夏の対策は色々と検討して行ってほしい。

柴田委員：食事を伴った休憩場所を求める声も大きい。床上公開をしている棟の板の間だけは今でも飲食可にしている。簀子や土座の家はできない。今年も継続してやっていきたい。

藤川係長：今どのくらい床上で食べている人がいるのか

柴田委員：結構いる。特に冬は囲炉裏の近くで食べる人もいる。マナーの指導はお客さんにもしている。

今委員：学校では今の時期から熱中症を心配している。対策をしっかりしてほしい。

高橋会長：学校利用のときは昼食の場所はどうしているのか。

今委員：中央広場と雨天時はここ（科学館学習室）を使っている。

葉山係長：作田家を工事前は使っていた。2棟使っても入りきれない場合もある。

大野委員：クラス毎に先生に面倒を見てもらえれば、古民家をあけて休憩してもらうこともできるので、もう少し柔軟に対応できると良い。古民家という空間で食べると他の場所で食べるのとでは感性も違うのではないかな。

今委員：何校か試験的に行うとよいのではないかな。

高橋会長：人数的に対応できる学校があれば試してみても良いと思う。シルク博物館

はいままで雨天時のみホールを解放していたが、熱中症危険指数によっては晴天でもホールを開放することに変えた。民家園でも検討いただきたい。

高橋会長：キャッシュレス導入の実態はどうか。

阿波園長：利用率は35%という数字が出ている。

高橋会長：受付やレジ締めなどで混乱はないか。

阿波園長：不具合があったときに混乱はあったが、好評をいただいております、問題なく運用できている。今後も利用していきたい。

菅野委員：園長やほかの職員が代わり、秋には新しいスタッフが入ってくるので、危機管理体制の引き継ぎを確実にしてほしい。

阿波園長：今月末に危機管理研修を行う。園内特有の危機管理体制もあるので、細かいところも含めて研修の中で周知を図る。

菅野委員：消防対応も含めて確認するのか。

阿波園長：スイッチの場所など基本的なところも含めて研修を行う。

長谷川委員：暑さ対策のミストをやっているところもある。予算的に厳しいかもしれないが、子どもも喜ぶと思う。水鉄砲など、喜ばれる、入りたいと思えるような対策をしたらよいのではないか。

阿波園長：暑さ対策については、他の野外施設での情報を集めて検討したい。また決定したらこの会議でも示したい。

高橋会長：民家の保存も大事な役割なので慎重に検討してほしい。

菅野委員：全国文化財集落施設協議会の会員施設に限らず、野外博物館は近くにも多いので、そこでの取り組みの情報なども参考にしてほしい。

高橋会長：県博協や日博協などにも積極的に参加して情報交換してほしい。

大野委員：三溪園では蓮池で蓮の形をしたシャワーなどを行っている。場所に応じた対応ができるのではないか。

高橋会長：今回の意見を踏まえて評価シートについて修正を検討していただきたい。

8) その他

今後の予定

6年 7月 第2回部会 令和7年度事業計画書について

6年 11月 第3回部会 園内視察

7年 3月 第4回部会 令和6年度事業評価について

以上について事務局より連絡。

<12:00 議事終了、閉会>